

前回のあらすじ

前回はフルレンジJBL D123が納まり、容積が決定したエンクロージャーの上に、ホーントウイーターJBL 2405を載せて、ネットワークの調整にチャレンジした。ネットワークといっても、極力鮮度を落とさくたないので、最もシンプルにトウイーターに直列にコンデンサーを一発入れるだけにし、値を変えて試聴し、最終的に1μFに決定した。さらに、トウイーターの位置も検討。その結果、フロントバッフルから12cm程度奥の位置がイイ感じという事が判明した。今回は、フロントバッフルより奥にトウイーターを設置するためにホーン形状にし、エンクロージャー内に納めて聴いてみた。

トウイーターを箱に納めました

岸：フロントバッフルとの面一、奥行が異なるホーン2パターン、計3パターン作った



トウイーターを内部に組込むべく、ホーンを製作中の岸氏

できました。簡単に試聴できるようにフロントパネルのトウイーター部分を取り外して交換できるようにしました。

吉野：凄いですね。さすがオーディオが高い。こんなに丁寧に作られてたら、結果が良くなかったら正直アツクです…

岸：思ったより大変でした。良くなかったら笑うしかないです。では比較実験用に作ったバッフル面一から試してみようか

トウイーター、バッフルと面一

吉野：毎度ですが、いきなりいい感じですね。トウイーターが箱に納まったことよって前回に比べて一体感が出ましたね。

岸：明快でパンチ力あるよね。ここまで鳴り切ってるスピーカーはそうそう聴いたことがないです。

吉野：充分いいんだけど、曲によってちょっとハイがキツイ。ハイハットが目立ちすぎるかな。

岸：たしかに長時間聴くのはツライかもね。トウイーターが中に入った事で内容積が若干減ってるので、裏板を1cm手前にして容積を2割増やしてみよう。

吉野：おー落ち着いたバランスになりましたね。やっぱり都度、内容積は調整しないとアカンですね。これで自分的にはOKです。完成！ ありがとございました！

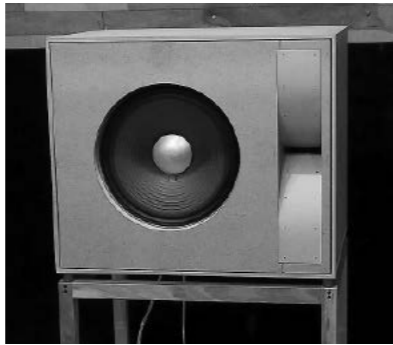
岸：ちよっと待て(笑)。ホーンも聴いて

ホーン1号(12cm奥)で試聴

吉野：うおー！ これはたまらん！ 音に包まれる！
岸………

吉野：音が濃くなって、拡がって、より一体感が出た。

岸：正直、驚きました。自分が想像してたのと全然違って。もっと高音が耳に突き刺さるようにビューンとくるのかと思ってたんですが、優しく包まれるような感じで



バッフルから12cm奥に固定されるホーントウイーター1号。なんか既におい感じですよ



トウイーターがバッフルから18cm奥になるホーン2号へ交換

す。これは凄い。作った甲斐がありました。吉野：いいですねえ。『ニック・ドレイク / PINK MOON』聴いてみましょう。岸：はは、これは酒が飲めやすね(笑)。いいなあ。ウチのスピーカーが抜かれたかも(笑)。

吉野：音に味というか存在感が出てきましたね。これも2割くらい容積増やしてみました。

岸：あーさらにイイ。これは完成度高い。もう充分な気もしますが、一応作ったんで18cm奥バージョンも聴いてみましょう。

ホーン2号(18cm奥)で試聴

吉野：うおー！

岸：参った。なんで!?

吉野：前回の実験ではバッフルから12cmくらい奥がベストポジションでしたよね？でも今回はこっちの方がよりホーンの良さが出る。

岸：パンチ力増したね。これぞ「ホーン・スピーカー」って感じ

吉野：音が前に攻めてくるし、もっと拡がるしで、とにかく気持ちイイ！

岸：見た目よりも、もっと大きなスピーカーカで聴いてるような気分になるね。

吉野：それに、音が濃厚なんですよ。エネルギー感もあって。これは熟練のオーディオマニアたちがホーンスピーカーに夢中になるわけだ。

岸：これもさらに2割くらい容積増やしてみますか。

吉野：うーん、またさらに良くなりましたね。満足度は相当高いです。もうこれ家に

連載

新感覚オーディオクラフト

億流スピーカー！ 邪道を往く

第4回
ホーントウイーターを埋め込め

アクロージュファニチャー 岸邦明 × ステレオ編集部 吉野
アクロージュファニチャー <http://www.acroge-furniture.com/>

持って帰って使いたい(笑)。
岸：相当いいですね。これは試作機なわけですが、本番で無垢のエンクロージャーになったらどうなるんだろう。もっと解像度とレンジ感が高まって最強になるんじゃないでしょうか？

吉野：そーだといんですが、正直想像つかないです。無垢材の個性が吉と出るか、凶と出るか。もし上手くいったらと思うと未恐ろしいです。

岸：ちよっと、この試作スピーカーをアクロージュファニチャーの工房で聴いてみませんか。過去に作った無垢スピーカーと聴き比べてみたい。

吉野：いいですね。行きましょう！

試作スピーカーを載せ、
岸氏の車に乗り込み工房に到着

岸：これが去年、ブラックウォールナットの無垢のみで作ったフルレンジスピーカーとラックです。どうでしょう？

吉野：音が異様に濃いですね。普通のスピーカーとは明らかに違う何かがありますね。図太い芯がありつつ、レンジ感や解像度が高い感じがします。気持ちイイ音ですね。

岸：では邪道スピーカーに変えてみましょう。

吉野：フムフム。ユニットや形状が違うのを考慮しても、別次元ですね。MDFはフワフワして軽い感じ、無垢に比べるとチープな感じがします。

岸：邪道スピーカーは音のバランスがかなりいい感じなので、これで無垢にしたらかなり良くなりそうですね。次回はバッフル



アクロージュの工房で聴く。やはり無垢材スピーカーとは雰囲気全然違った



ホーン2号。曲がり角が鋭角でよりかっこいい

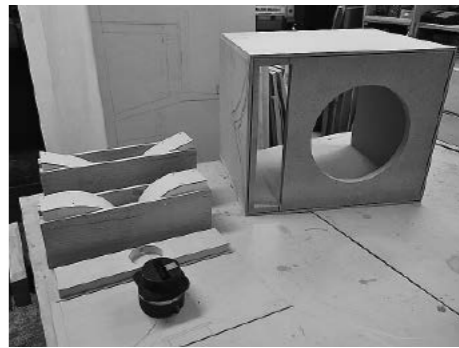
の素材を色々変えて聴いてみましょうか。
吉野：それ興味あります！ MDF、パチクル、合板などいろいろと聴いてみましょう！ 岸さん、また実験用に製作よろしくお願いします！



ホーントウイーターを固定する岸氏。曲がるビットを装着して細かいところもネジどめ



トウイーターをバッフルと面一で聴く



フロントバッフルと面一、深さの異なるホーン2種類、計3種類を用意。簡単に交換できるようにはめ込み式で製作した

SPクラフトマスターの辛口コメント ホーンは長さや角度によって音の広がりが増す。高域ホーンは直線的な高域の音を上手く拡散させる働きがある。ただしスピーカーとリスナーの距離が重要になるので、自宅で使用するスピーカー位置や距離を想定しながら調整しないと、部屋に入れた時に上手く鳴らない事があるので要注意だ。塗装や仕上げをしていないMDFの音はナチュラルだが、音は引き締まらない。それは天然木でも同じだ。それも考慮する必要がある。